

14歳の志を立てる 総合的学習

長野県長野市立柳町中学校

とくたけたか お
徳武隆夫

【実践の内容】

新教育課程が完全実施となったが、その死命を制するとされる総合的な学習の時間に対して批判や疑問も出されている。特に中学校では、特別活動や学校行事を安易に総合的な学習に読み替える傾向があるのではないか。

本稿では、従来は進路指導の一環として行われてきた職業体験学習と特色ある学校行事「14歳立春式」をとらえ直して題材展開に取り込んだ、生き方学習としての総合的な学習の実践を紹介する。職場で働く体験や地域の方との出会いなどから自己を見つめ、生き方にかかわる問いを設定し、14歳の志を立てていった過程をたどりながら、生き方を探求する総合的な学習の魅力と可能性を考える。

【論文内容の紹介】

1 生き方学習『14歳の自分探し』の構想

本校には、14歳を迎えた2年生を全校でお祝いする「14歳立春式」がある。「自覚」「立志」「健康」をスローガンに掲げ、昭和41年より学校行事として受け継がれてきた。生きる目的と意味を問い続ける総合的な学習は、人生の節目を迎え自分探しを始めようとする2年生にとって、意義ある学習になり得る。

本題材『14歳の自分探し』（全35時間）では、体験的な活動を通して自己を見つめ、生き方にかかわる課題を追求することをねらって、目標を次のように設定した。

- (1) 働く体験や地域の方との出会いで持った問いを、調査や交流、意見交換を通して追究し、憧れる生き方を見い出そうとする。

- (2) 自分と向き合って自分らしさを見つめ、友と共有した立春式の感動を胸に、学びがいと生きがいを求めていこうとする。

2 題材の展開と生徒の学びの姿

- ① 職業体験学習に参加する（10月）：職業そのものを学ぶのではなく、地域の方々との出会いをきっかけとして現在の自己を見つめることに重きを置いた。体験先を選定する過程では、生徒との対話を重ねることによって学びたいことや聞いてみたいことを明確にすることを大切にした。

- ② 橋本左内の『啓発録』を読む

- ③ 「学校Ⅱ」（山田洋次監督）を視聴する

- ④ 「本物との出会い講座」に参加する：12月には、15名の教育ボランティアに、各人が追究している内容に関する講座を開設していただき、2時間の体験的な活動を行った。どの講座でも14歳の中学生に考えてほしいことや学んでほしいことを話していただいた。

- ⑤ 生き方にかかわる自己課題を設定する：これまでの体験的な活動を振り返り、生徒は、それぞれの場面で使った資料やワークシートを読み返し、印象に残ったことや実感したことを発表し合った。体験的な活動を通して学んだことに自分の悩みや不安、願いをつなげたとき、生き方にかかわる問いが設定されたと考えたが、本題材において最も指導が難しいポイントとなった。今までの取り組みや気づきのよさを評価しながら、学級の生徒一人一人と対話を重ね、今後考えてみたいことを絞り込んでいった。

- ⑥ 憧れる生き方を追究できる本を読む：自分の問いに寄せた人物研究を冬休みの課題とし、資料『二十世紀の肖像』から20名を簡単なプロフィールとともに紹介した。

- ⑦ 「私の啓発録」を書く：一人一人が「14歳の志」を立てて立春式に臨んでほしい、と願い、「私の啓発録」を書かせることにした。提出期限は立春式の前日、原稿用紙6枚以上、下書きの点検を担当に受けた後ペンで清書す

	4月	5月	6月	7月	8月・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1学年	情報活用術（学年プラン・習得型） メディアリテラシーとコミュニケーションスキルを習得する学習 30時間					生き生き健康学（学校プラン・探究型） 自分の心身の変化を見つめながら健康問題を追究する学習 40時間					
2学年	ふるさと長野学習（学年プラン・探究型） 善光寺や湯福川のフィールドワークを中核とする地域研究 35時間					14歳の自分探し（学校プラン・体験型） 社会参加学習で自己を見つめ、生き方にかかわる課題を追究する学習 35時間					
3学年	学級プラン 生徒と担任が協同で創る学級自由題材 45時間					社会の中で生きる私（学年プラン） 現代社会が抱える諸問題へのかかわり方を模索する学習 35時間					

ることを条件とした。この活動を通して、自分が学び考えてきたことの意味付けがようやく始まったように感じた。

⑧「14歳立春式」に参加する（2月5日）：式に臨む生徒たちに、あらかじめ保護者をお願いしてあったお祝いの言葉を手渡した。保護者は前夜、子どもの「啓発録」を読み、心をこめてメッセージを書いてくださった。

立春式の中でKさんは代表の一人として決意発表を行った。

14歳になった私には、将来絶対にこれをやりたいというものはまだありません。でも私は、人と人のかかわりを大切に、人のために何かができる仕事に憧れをもっています。きっかけは職業体験学習でした。老人福祉施設で仕事のやりがいを語ってくれた職員の方はすてきでした。もう一つは、冬休み中の人物研究で出会ったマザー・テレサの生き方でした。愛をもって一生懸命に仕事をし、貧しい人の役に立とうとする姿に感動しました。私は「啓発録」に次の三つの柱を立ててみました。

- 一、甘えた気持ちを切り離す
- 一、いつも具体的な目標をもつ
- 一、精一杯取り組める自分になる

自立ということは、難しいことだとわかっていますが、立派な大人になるために、自覚をもって精一杯頑張ります。【抜粋】

⑨題材を振り返り、杖言葉を色紙に書く：「自分らしい生き方」をテーマにした講演会

で、講師は、自分の歩んできた道と生徒が学んできたことの意味をわかりやすく語り、「自分探しの旅は一生続いていく」という言葉を生徒に贈ってくださった。生徒は、これからの自分への励ましの言葉を色紙に書いて本題材を終了した。Kさんは、多くの経験や苦労をしながら自分自身を磨いていきたいとの願いをこめて、「心田を耕す」と書いた。

3 知の総合化・実践化を図るカリキュラム

本校のカリキュラムは、今日的課題と生き方課題、基礎学習（習得型）と問題解決的な学習（探究型・体験型）、地域や学校の特色を生かした学校プランと学年・学級プランなどのバランスに配慮した内容になっている。

1学年後期から始まる問題解決的な学習では、目標に準拠した評価を踏まえた個人内評価を行い、問題に主体的にかかわる態度、問題解決能力、見方・考え方を観点とし、問題解決能力については3つの構成要素（学習設計力、情報活用力、自己評価力）から評価規準を設定している。また、観点到に合わせて、観察法、面接法、自己評価・相互評価法、ポートフォリオ法を組み合わせた評価計画を立てて指導・支援にあたっている。

4 研究のまとめと今後の方向

思春期の悩みや不安をもつ中学生だからこそ、今日的課題に取り組む学習だけでなく、自分が憧れる生き方を探究する学習をぜひ経験させたい。そのためには、教師の熱意と主体性、カリキュラムづくりの力量形成が欠かせないのではないか。